

## 休業期間こそ繁忙期

### —— 進学情報センター勤務雑感

永井 久美子（進学情報センター）

現行の学事暦では、3月と8月に、それぞれ1A、2Sセメスターの成績が発表される。今年は3月8日と8月15日の発表であった。成績と進学選択は直結するため、進学情報センターの「繁忙期」は、授業期間とは別個に、春季休業と夏季休業の期間中にも、もとい、その時期にこそ訪れる。特に8月から9月にかけては、進学選択にかかる評点が確定し、志望先の登録変更の締切を迎え、第一段階から第三段階までの内定先が順次発表される時期でもあるため、深刻な相談も増える傾向がある。記録的な猛暑となった2018年の夏にも、いわゆる「夏休み」中に、多くの学生に会う機会があった。

着任してまだ2年目ではあるが、上記の「繁忙期」を乗り越え、進学情報センター相談教員として1年を過ごした雑感と、日々相談にのる中で、複数の学生について共通して感じたことなどを記してみたい。相談のいくつかの傾向を紹介することが、同じような不安や悩みを抱えている学生にとってヒントになれば幸いである。個別の相談内容の詳細に踏み込むことは避けて記し、個人を特定できるような記述は控えたので、これまで相談に来た学生も、どうか安心して読んでほしい。

「繁忙期」を迎えると記した通り、進学情報センターは、授業期間外も平日は開室している。休業期間中も開いているかどうかの問い合わせが以前は少なからずあったようで、現在は、進学情報センターのホームページに開室カレンダーを掲載するようにしている (<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/agc/kaikan/schedule.pdf>)。臨時閉室は稀であるが、月間予定の確認ができるカレンダーの活用を勧めたい。

開室時間は10時から17時までであり、カレンダーは1号館2階のセンター入口にも掲出している。休業期間中でも駒場に来ることができるのであれば、資料室もあるセンターに来てもらえればと思うが、帰省中などで来室が難しい場合には、電話やメールでまずは問い合わせてもらいたい。くれぐれも一人で悩みを抱え込まず、気になることがあるときは、早めに相談してもらえればと思う。

進学先に迷うことがない学生は、センターを訪れる必要性を感じないかもしれない。だが、資料室には各学部の便覧やパンフレットを揃えているので、志望する進学先の詳細を知ることには役立ててもらえたらと思う。志望先は決めていても、進学後の「忙しさ」が気になる学生は少なからずいるようだ。内定者向けガイダンスが実施される学部・学科については、内定後の説明で改めて確認してもらいたいところだが、卒業に必要な単位数や専門科目の開講予定など、便覧に明記されている範囲の情報は、資料室で調べると得られることがある。資料室は、周囲に教室の並ぶ1号館2階正面階段前にあるので、授業の合間などに、気軽に立ち寄ってもらえたらと思う。なお、資料室にスマホや文具の置き忘れがあったこともあるので、資料閲覧後の忘れ物には重々留意してほしい。

教室の多い1号館は、休業期間中は基本的に静かであるが、行事等で教室が使用されることがあるほか、正面階段をのぼり2階にある進学情報センターと、真上の3階にある学生相談所には、学生そして教職員の出入りがある。使われていない教室には、夏には熱気がこもり、冬には外気とほぼ変わらぬ冷気が満ちるが、授業が始まると、一気に建物中が賑やかになる。特に4月の賑わいには、単なる館内人口の増加というだけではない、新入生の活気に満ちた独特の雰囲気がある。各教室から語学の発音練習の声が聞こえてくると、新年度が始まったのだなあと実感する。

4月中のみならず、5月はじめの履修科目確認・訂正期間までは、進学選択がいよいよ近づいた2年生はもちろん、さっそく進学選択が気になる1年生も含め、センターの来室者は非常に多い。こちらも昼休みをずらしてとることで、来室の多い2限と3限の間にも相談に応じるようにしている。

新入生はまだ1号館に不慣れであろうし、教室と同じ並びに相談室があるため紛らわしいとは思いますが、時々まノックなしでドアを開ける学生がいる。相談室前には、教室との区別のための掲示を複数出しているのですが、特に「面談中」の札を下げているときには、どうか気をつけてもらえるとうれしい。

相談に来る学生には、聞きたい内容を事前にまとめあげてくるタイプもいれば、急に思い立って来室

するタイプもいる。準備万端な学生の話は確かに分かりやすいが、話しながら考えがまとまってゆくこともあると思うので、あまり気負わずに来室してもらえればと思う。

2年次の春以降になると、まだ志望先が決められない、自分が何をしたいのか今も分からない、と申し訳なさそうに話を切り出す学生に出会うことがある。手続きの期限は厳守であるため、くれぐれも不備のないよう、進学志望先の登録期間や変更期間の終了間際に相談に来た学生に念を押すようにはしているが、なかなか志望先を決められないことを責めたり焦らせたりするつもりは決していないので安心してほしい。

むしろ、興味のありどころがなかなか絞れなくても、第一志望以外の進学先を検討する必要が生じたとしても、くれぐれも自信をなくすことはしないでほしいと願っている。自身が志望先を確定させたのも遅い方であったため、進学先に迷う学生には、正直なところ、親近感すら覚えている。思い詰めた様子で来室した学生が、相談後、少しでも明るい表情を見せてくれたときや、センターに来てよかったですと言ってもらえたときなどは、こちらも嬉しくなる。

複数の候補から志望先を選びかねるといふ相談のほか、目指している進学先はあるが、成績で悩んでいるという相談ももちろんある。進学選択に用いられる評点は、1年次の成績で確定する部分が多く、前期課程修了要件を満たさなければ、そもそも後期課程への進学が不可能になってしまう。入学後、今度はすぐに進学のことを考えねばならないのは大変であり、受験に続きました競争かという批判もありそうだが、1年次にもっと勉強しておけばよかったと話す2年生に会う機会のある立場としては、進学選択に際し、後々焦ったり困ったりすることのないよう、できれば1年生のうちから勉学に励んでもらえたらと願っている。

昨年は、受入保留アルゴリズムが導入された進学選択の最初の年であったため、特に第二段階の実施方法についての質問を多く受けた。第二段階、第三段階では、志望理由書を課したり面接を実施したりする学部・学科があり、点数のみが評価基準ではなくなったため、最低点が公表されなくなった。主な変更点については、資料室にも掲示を出し周知に努

めているが、今年も第二段階の最低点を尋ねる質問があったり、第二段階での志望登録の方法についての質問があったりした。登録にあたり、定数の少ない学科や人気のコースを上位に書かねば不利になるというのではなく、学生本人が進学を志望する順に記すことが、もっとも学生の希望に即したマッチング結果を生む方式となっているのだが、まだ誤解もあるようだ。質問を受けたときには説明を尽くしているほか、教務課前期課程のホームページには、アルゴリズム導入にあたり2016年11月に実施されたガイダンスの資料が保存されているので、そちらも紹介したい ([http://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/news/kyoumu/2016guidance\\_algorithm1128.pdf](http://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/news/kyoumu/2016guidance_algorithm1128.pdf))。

受入保留アルゴリズム実施2年目となる本年は、昨年の状況を周りから聞いた様子の学生に会うことが多く、制度変更の年となった昨年よりは、不安が少なそうに今のところ見受けられる。しかし、噂で聞いたのですが、ネットで見たのですが、という話を聞くと、必ずしも正確な最新の情報ではないこともあるので、聞いた話を誤解したりしていないか、アルゴリズム導入前の話でないかといった点には、留意してもらえればと思う。初年次ゼミナール文科の授業で、引用は正確に、出典は明記を、と強調してきたが、学術情報以外についても、同様のことがいえるだろう。「ロコミ」のすべてを否定するわけではないが、進学情報センターやガイダンスでこそ得られる最新の情報に、ぜひ注意を払ってほしい。

相談室には、「繁忙期」はもちろん、年間を通してさまざまな学生が来室し、多様な悩みを打ち明けてゆく。悩んだり不安を抱えたりしているのは、決して一人だけではない。こういったことは進学情報センターで相談できますかという質問を受けることもあるが、内容によっては、教務課や学生相談所、そして本郷にあるキャリアサポートセンターを適宜紹介しつつ、できる限りの対応を行っている。どこに相談すればよいかの相談を含め、思い詰める前に、まずは来室してみたい。最新の正確な情報の提供と悩み事の解決に、今後も役に立ちたいと願っている。